



読者からの声

女性医師の窓

夢から現実へ、そして考えたこと

岡部病院 水腰 千佳子

空を飛ぶ夢をみたことがありますか？ 私は以前、さほど長くない期間に続けさまに、空を飛ぶ夢をみたことがあります。それはストーリー性はないけれど、とても気持ちのいい夢で、風にのりながら自由自在に空を飛び続け、時には腕を一生懸命羽ばたかせて山の高みまで飛翔することができるのです。不思議なのは、夢の中で受けた風圧が、目が覚めた後も胸のあたりに余韻として残っていたりすることで、そんな夢をみた後は、来世は鳥に生まれ変わってもいいなと思ったものです。

鳥といえば、卯辰山の麓にある私の家にはよく鳥が遊びにきます。こんなに鳥がくるなら巣箱をかければ入るかもしれないと思いつき、我が家のシンボルツリーであるやまぼうしの木に巣箱をかけてみました。1年近くたち、もう入らないのかなと諦めかけていた頃、「ツツピー、ツツピー」と2羽の^{しじゅうから}四十雀が巣箱を覗きにくるようになりました。私はなるべく庭に出ないようにして、窓越しに巣箱を^{しじゅうから}観察するのを日課にしました。そんなある日の朝、巣箱から^{しじゅうから}四十雀が飛び出していき、さらに虫をくわえて巣箱に入る姿を確認したのです。やがて^{しじゅうから}四十雀のつがい^{しじゅうから}がせつせと虫を運ぶのが日常となりました。巣箱の下に行き難の鳴き声を確かめたいという誘惑にかられている私に、夫は「シンボルツリー帯は立ち入り禁止だ」と禁止令をしました。

ところがその禁止令を平然と破るやつがいたのです。スズメでした。スズメが群れでやってきて巣箱を取り囲み、警戒して出てきた^{しじゅうから}四十雀を攻撃するのです。巣箱の中に入ろうとするやつまでいます。私は思わず窓を乱暴に開けてスズメを追い払いました。しかし、スズメは執拗にやってきます。今度はスズメを追い払うのが日課になってしまいました。「ずうたいが一回り大きいくせに、群れで^{しじゅうから}四十雀をいじめるなんて許せない！」

それから世の中はゴールデンウィークとなり、私たちは三日間家を空けました。家に戻ると、庭や屋根の上にカラスが何羽もいて騒々しくしています。嫌な予感がして庭に出ると、巣箱の下あたりの地面一帯に鳥の産毛や羽が散乱していました。瞬時に留守中起こったことが想像できてしまいました。翌日、^{しじゅうから}四十雀が2羽現れました。親鳥は無事だったのです。親鳥は荒らされた巣箱には入らず、庭の花壇のあたりを長い間うろろしていましたが、きっと失った子供のことが諦めきれず、探しに来ていたのでしょう。しかしその夜、激しい雨が降り続き、それっきり^{しじゅうから}四十雀のつがいは姿を現さなくなりました。

自然界の弱肉強食の現実を見せつけられた出来事でした。そういう点では、鳥の世界は人の世界よりもずっとシビアだったのです。しかし最近の人の世界はどうなのでしょう？ 生命体であることに飽き足らず豊かな生活を追求し続けた人間は、いま経済至上主義の巨大な波に飲み込まれようとしているかのようです。時代の趨勢は個人の力では抗いがたく、このままではいけないと感じながら、一方で生き残らなくてはと危惧するアンビバレンツ的な風潮のなかで、弱肉強食めいたものが増殖してきているような気がしてなりません。

来世は鳥か人間か？ 「もちろん人間に」と言える世の中をつかっていきたいものです。